

N I E 実践報告

霧島市立国分小学校

1 はじめに

本校は、霧島市の中央に位置し、今年で創立142周年を迎える児童数836名の学校である。
昨年度より、NIE実践指定校として研究をはじめて2年目となる。新聞を活用することは、学力の向上につながるとともに、子供たちの世の中での出来事に関する興味・関心を高めていけると考え、全学年で実践に取り組んでいる。

2 テーマ

新聞に親しみ、主体的に考え、判断する子供の育成

3 実践内容

- (1) N I E タイム (ファミリーフォーカス) の実施
- (2) N I E コーナー(新聞閲覧)の設置
- (3) 情報・掲示委員会としての取り組み
- (4) 授業の実践
- (5) 新聞社(ひろば覧)への投稿

4 研究の実際

(1) N I E タイムの実施

月1回、朝の活動の時間に「N I E タイム」を設定し、新聞を活用した取組を行った。内容は、それぞれの学年の実態を考慮しながら取り組んだ。さらに、その時間に使ったワークシートを学年・学校の掲示板に掲示し紹介することで、次の活動への意欲化を図った。

[低学年]・・・ 新聞から知っている字を探して印をつける。(平仮名・カタカナ・漢字)
四コマ漫画の吹き出し(セリフ)を、イメージを膨らませながら書く。
記事をワークシートに視写する。

四コマ漫画のセリフを考えている様子



新聞記事の視写



[中学年・高学年]・・・① 新聞記事を読み、記事に対する自分の思いや考え等を書く。家庭に持ち帰りファミリーフォーカスを実践する。

② 新聞記事をもとに作られたワークシートの問題を解く。

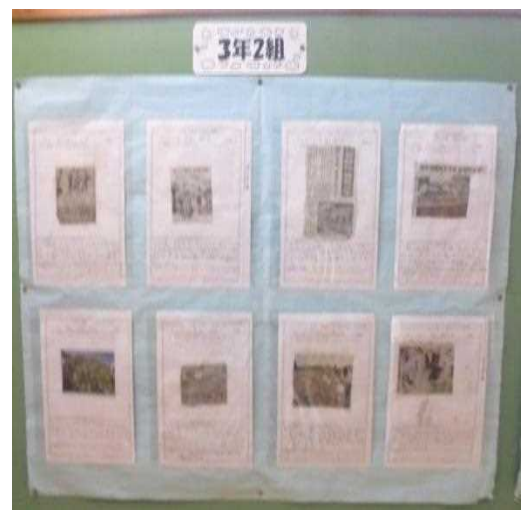
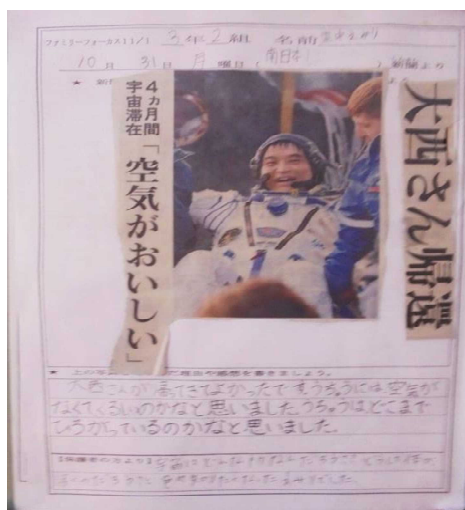
新聞記事を読み感想を書いている児童の様子



ファミリーフォーカス



ファミリーフォーカスの掲示板



(2) N I E コーナー(新聞閲覧)の設置

本校4棟2階にあるオープンスペースに新聞閲覧コーナーを設置し、子供たちが自由に新聞を読める環境をつくった。朝の時間や昼休みの時間等を中心にN I E コーナーに集まり、じっくり時間をかけて新聞を読んでいる姿が見られた。新聞は新聞社ごとに分けて、日付順に並べてあり、自由に手に取って読むことができる。それ以前の新聞は、ロッカーに保存し記事をさかのぼって探せるようにしている。

N I E コーナーで新聞を読む児童



南日本新聞オセモコの掲示



(3) 情報・掲示委員会としての取組

情報掲示委員会の活動の一環として、「今月の喜怒哀楽」と題し、「喜・怒・哀・楽」の4つのテーマから選んだ記事をもとに、見出しと感想等を書き、N I E コーナーに掲示した。国分小の子供たちが、どんなことに興味をもっているか考えながら記事を

探し、関心をもって読んでもらえるように感想を書いていた。

喜怒哀楽の記事を選んで情報・掲示委員会の児童

今月の「喜怒哀楽」



(4) 授業の実践

南日本新聞社岩松さんのお話

① 5年生の実践（国語科）

「新聞を読もう」

新聞の編集のしかたや記事の書き方を学習した。南日本新聞社の岩松さんに、目次や見出し、リード文等、新聞の読み方のポイントを指導していただいた。

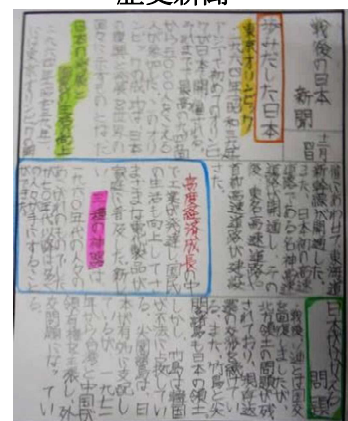
その上で、当日の新聞を見て好きな記事を選び、自分が記者になったつもりで記事を書いた。



② 6年生の実践（社会科）

6年生では、社会科(歴史)で学習したことのまとめとして、歴史新聞を作成した。新聞を作成する上で、大切なポイント(見出しのつけ方・5W1H)を指導した。社説では、戦争に対する自分の考えや平和を願う思いなどが書かれていた。完成した新聞を互いに交流することで、学習したことをさらに深めることができた。

歴史新聞



③ 総合的な学習の時間

第6学年の総合的な学習の時間「熊本を知ろう」の単位では、「修学旅行の自主研修で調べたこと」をテーマに新聞づくりを行った。事前学習では、南日本新聞社の中原記者に来校してもらい、どんな情報を知りたいかを事前に考えてインタ

ビューすることや、写真を撮るときのポイント、調べたことをどのように記事に書くか等、詳しく話をしていただいた。その後、実際に熊本を訪れ、自分たちの課題にそって取材を行い、新聞にまとめた。構成の仕方や見出しの工夫のアドバイスをしていただいたことにより、自分たちの考えや伝えたいこと、写真を選んだ理由等を明確にした新聞を作成することができた。

新聞の発表会では、再度、中原記者に来校してもらい、児童の作成した新聞に対する講評をいただいた。

中原記者による事前学習



新聞発表会の様子



(5) 新聞社(ひろば覧)への投稿

新聞に親しみをもつために、「ひろば」への投稿を行っている。5年生の作文が掲載された。掲載されることで、新聞をより身近なものに感じている様子が見られた。

5 成果と課題

[成果]

- N I Eタイムの取組や、各学年の作品掲示を通して、子供たちが新聞に興味・関心をもつとともに、文章を読んで自分の考えを書く力が身についた。
- N I Eタイムの取組の1つである「ファミリーフォーカス」を通して、親子で意見を出し合い、考えを深める活動ができた。また、親子のコミュニケーションを深めることができた。
- 新聞記者のアドバイスを受けながら、国語科や社会科・総合的な学習の時間で調べたことを新聞にまとめる学習を通して、調べてわかったこと、考えたことを読み手を意識しながら、伝えたいことをわかりやすく表現する力を高めることができた。
- N I Eコーナーを設置し、環境を工夫することで、子供たちが新聞をより身近に感じられるようになり、自由に新聞を読むことによって子供たちの社会の出来事に対する興味・関心が高まった。

[課題]

- 新聞社とより連携を図りながら、より多くの教科・領域で、新聞や新聞記者を活用した授業を、積極的に実践していく必要がある。
- 新聞社(ひろば覧)への積極的な投稿を継続していきたい。
- 新聞活用の効果の客観的評価「見える化」の研究を具体的に進め、子供たちの学力向上をめざす取組を新たに実践していきたい。
- 学年ごとのN I E担当の連携をより密なものにし、各学年の発達段階に応じた新聞活用について、常に共通理解を図っていく。